

学校目標・経営方針	自己実現・社会的自立ができる力を養い、健康で心豊かな人間を育成する。
-----------	------------------------------------

本年度の重点目標	1 連続性を重視した学びの充実
	2 一人一人に応じた指導の充実
	3 自立と社会参加に向けた取組の充実
	4 視覚障害教育相談の充実

達成度	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

山梨県立盲学校校長	白倉 明美
-----------	-------

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価				年度末評価（12月20日現在）		
番号	評価項目	本年度の重点目標		自己評価結果		
		具体的方策	方策の評価指標	達成度	成果と次年度への課題・改善策	
1	確かな学力を育てる指導の実践と自ら学ぶ態度の育成	個別の教育支援計画及び個別の指導計画のもと、やまなしスタンダードを活用した授業実践の充実 県内外の各種研修参加による還元	保護者との合意形成状況 学校評価アンケート 専門性チェックリストの活用	A	基礎・基本を徹底して学習指導しているが、発展的学習や協働的学習については課題の残る生徒もいる。児童生徒が主体的、意欲的に取り組めるよう、オンライン交流が効果的な場面を精選する必要がある。	
		触察教材の充実と積極的な活用を通した言語活動の充実	触察教材リストの作成			
	将来を見据えたキャリア教育の充実と進路の実現	学校生活全般におけるスキルの向上と、達成感の積み重ねによる自己有用感の獲得	キャリアパスポートの作成および活用状況 生徒対象学校評価アンケート		生徒のキャリア形成には、個々の視覚障害の状況変化により柔軟な対応が求められる。保護者への理解、学校からの丁寧な情報提供を行い、卒業後の進路に向けて共通理解のもと指導を進める必要がある。	
		進学を含めた個々のニーズに応じた進路の開拓	開拓状況 現場実習の状況 進路見学会の実施状況			
2	障害特性に応じた、ICT機器を積極的に活用した授業の改善	ICT機器を積極的に活用した授業改善と指導の充実	視覚障害に対応した機器の設定状況 授業実践の状況 職員の自己評価	A	個別対応の指導にICTを活用することで、教職員のICT活用力は高まっている。	
	障害特性に応じた、専門家を積極的に活用した指導の実践	月16時間の視能訓練士及び歩行訓練士との連携を生かした指導の充実と授業改善	専門家と連携後の幼児児童生徒の評価・改善状況		専門家の助言を授業改善につなげられるよう、担任や学部職員、専門家と保護者といった懇談の機会を設けた。自主通学に向けた訓練を行い、学部や家庭と連携した指導を行っている。	
	教職員の人間性や創造性を高め、効果的な教育活動が展開できる職場環境づくりの推進	教職員が各自の業務を適切に管理し、定時退校日における全教職員による定時退校の実現	ボランティアの活用状況 実施状況 職員の自己評価 教員の休憩時間変更についての職員評価		部活動に外部指導者を活用し、県外大会に向けた専門的指導の充実が図られた。定時退行日が定着し、見通しをもって業務する意識が高まった。休憩時間の変更で放課後の休みを取りやすくなったことはアンケートでも高評価である。	
3	社会性の涵養、自主性の伸長を目指す交流及び共同学習の充実	学校間交流、地域交流、居住地校交流及び共同学習の充実	事前打ち合わせの充実 学校評価アンケート 推進協議会	B	連携圏・校である甲府西幼稚園池田小学校・西中学校・甲府城西高校・甲府西高校と様々な行事をとおして交流ができた。県外の盲学校とのオンライン交流が定着し、学級の特性に応じ機会を設けることで、同学年の児童生徒と学びを深めることができた。	
		個々の実態に沿った各種専門家の活用	専門家と連携後の幼児児童生徒の評価・改善状況			
	社会の状況に対応し、適切に活動する自己管理能力の育成	感染症等に対して適切に行動しながら、心身の健康を保持増進できる望ましい生活習慣の形成	実施状況 学校評価アンケート		感染症防止対策を徹底し、現場実習や校外学習、外部講師の特別講座など実施できた。六星祭の来校者制限についても県内の感染者状況を踏まえ、緩和の方向で対応できた。教科学習だけではなく、学級指導、委員会活動など学校教育活動全体で取り組み、発達段階に応じた体力づくりで成果があった。また、県内外の各種競技会の参加し活躍した。	
		学校の諸活動のなかで自己を理解し、他者と協働しながら日常生活を適切に送る力の育成	実施状況 学校評価アンケート		他者と協働する喜びややりがいにつながるように、年齢層に幅がある在籍生がともに企画・運営・活躍できる学校行事などの機会をさらに増やしたい。	
4	視覚障害教育相談の推進	Eye愛ひとみ相談支援センターの啓発と相談の充実	実施状況 学校評価アンケート	A	県内の弱視児の在籍校や個別相談のニーズが非常に高く、校務分掌の人員だけでは負担が多い。引き続き、持続可能な体制を県に要望していく。来年度は全国視覚障害者早期教育研究会の主幹校として、全国の盲学校との連携をさらに強化したい。視覚障害のセンター的機能の発揮により、インクルーシブ教育を推進することができた。しかし、それに伴い本校の学級数が減り、教員定数が大幅に減少することとなった。学校運営上の課題が残る。	
		ホームページなどによる外部への情報発信の充実	実施状況 学校評価アンケート			
		医療・福祉・行政・教育関係機関との連携の強化	連携の状況 学校評価アンケート 医療との連携状況			

学校関係者評価	
実施日（令和6年2月8日）	
評価	意見・要望等
4	・国内外他県とのオンライン交流にICT活用しながら意欲的に取り組まれていた。 ・県内大学と連携して職雑教材の導入、効果的活用が進められていた。学校の特色となる取り組みとして高く評価したい。 ・専門性チェックリストの活用と進路の取り組みも丁寧に実施されていた。 ・視覚障害のある幼児児童生徒のための教育機関として求められる教育内容を確実に保証しながら、教材の充実や交流活動の活発化に努め、一層幅広く深いものを目指している点が高く評価できる。 ・外部機関との連携を強化し、個々の生徒に応じた進路指導がなされていた。進路意識の形成に関しても新たな取り組みを行っている点が高く評価できる。 ・きめ細かく取り組みがなされている。
	・ICT機器活用力に加え、目的をもって活用がなされている点を高く評価したい。 ・訓練士との連携、自主通学への試みなど、実践へつなげる取り組みが素晴らしい。 部活動への外部指導活用、休憩時間の変更など、丁寧に柔軟な改革が効果的に結果につながっているようだった。 ・ICTに関しては、幼児生の理解のためという点を第一義に考えたうえで授業中で極めて自然に活用されている。 ・専門家の助言や指導を実際に生かす体制が学校全体でしっかりと取られており、成果として表れている。 ・職場環境の改善の意識が職員全体に浸透しているとともに、さらなる改善に努めている。同時に今までの取り組みのなかった課外活動も充実させて成果を上げている。 ・ICTを活用しながらさらに業務効率化に取り組んでほしい。職員の残業時間が減っていることはよいことだと思います。
	・新型コロナウイルス感染症でICT活用が進んだ面もあり、児童生徒の交流や主体的な学習を共同学習へつなげて生かす環境が整ってきている。その充実と努力を評価したい。 ・体力づくり、競技会参加も目覚ましい。 ・在籍数が少なく、集団での活動機会がなかなか取れないのが実情だが、地域の学校との交流を広げ深めるとともに県外の盲学校との交流の機会を増やし、学習活動を行っている点が高く評価できる。 ・感染症防止への体制についても、幼児生の安全安心、健康を第一に考え、実情に応じた活動を保証し、県内外の各種大会・競技会等に参加して活躍したことは高く評価できる。 ・今年度、地域と従来通りの活動ができ、地域一体となった学校づくりとなった。防災体制など意見交換し、ともに防災対策の構築を図りたい。 ・今後も積極的に交流や協働をすすめてほしい。
	・相談支援センター活用が充実した内容で取り組まれている点を何より高く評価したい。また、地域への助言により教員は大変な中で丁寧な指導を行っていることがわかり今後のインクルーシブ教育推進のために盲学校への教員数の補充が大切である。 ・HPなど情報発信も充実していた。 ・医療・福祉機関との連携を強化して、本校の教育についてより理解を深めてもらう活動に取り組むとともに、県内唯一の視覚障害教育の専門的機関としての役割を十全に果たしている点が高く評価できる。 ・教員が減る中、発表や研修、相談、情報発信まで、多岐多量な業務があり心配です。

留意点（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。